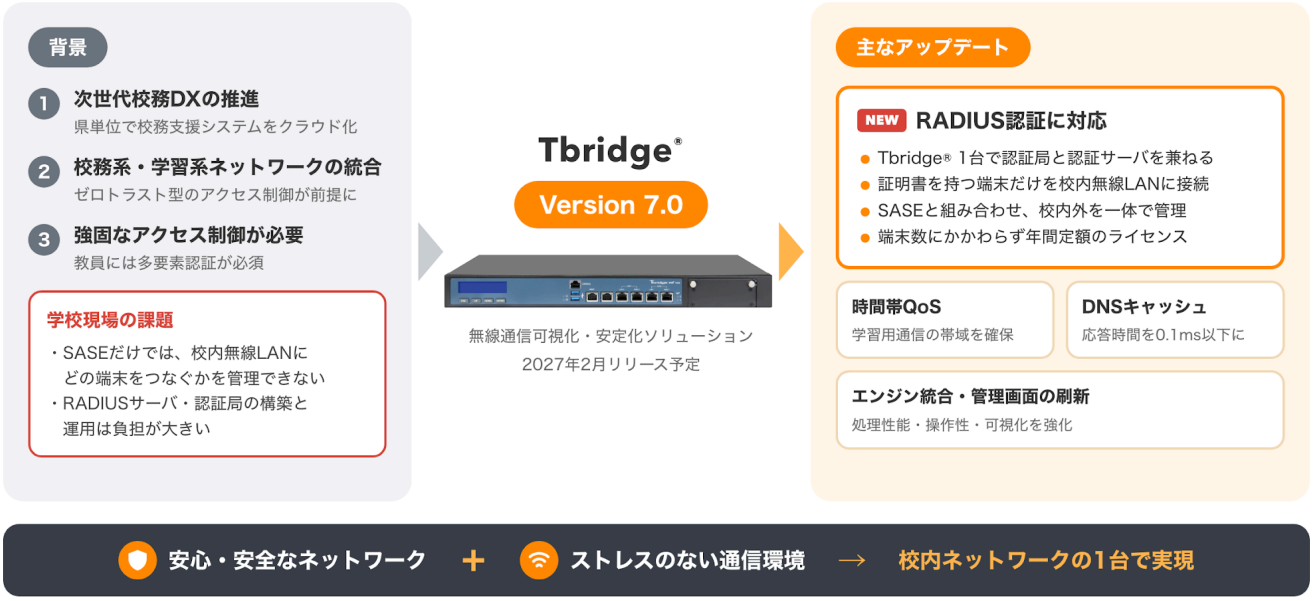
CHieru ＜Press Release＞

2026年11月25日
チエル株式会社

チエル、無線通信可視化・安定化ソリューション『Tbridge®』Version 7.0で RADIUS認証に対応
～証明書による端末認証で校内無線LANへの接続を管理し、次世代校務DXに求められるゼロトラスト対策を支援～

学校教育におけるICT利活用を支援するチエル株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役：川居 睦、以下チエル）は、無線通信可視化・安定化ソリューション『Tbridge®』（ティーブリッジ）のファームウェア最新版「Version 7.0」を2027年2月にリリースすることをお知らせいたします。本バージョンでは、IEEE 802.1X認証（EAP-TLS方式の証明書認証）に対応し、『Tbridge®』を校内無線LANのRADIUSサーバ兼認証局として利用できるようになります。あわせて、時間帯に応じたQoS（帯域制御）やDNSキャッシュ機能を搭載し、学校ネットワークの「安心・安全」と「快適さ」を1台で高めます。



▪開発の背景

文部科学省の「教育DXロードマップ」（2025年6月改定）では、次世代校務DXの推進として、都道府県単位で統一した校務支援システムをクラウド環境で利用する方針が示されています。また、「GIGAスクール構想の下での校務DXについて」では、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じたうえで、校務系・学習系ネットワークを統合することが示されています。

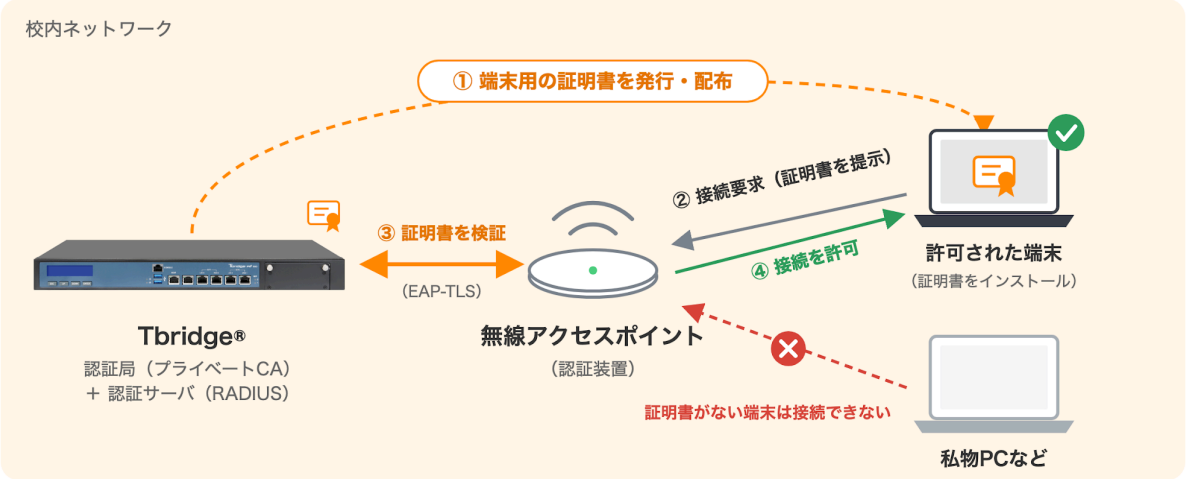
さらに「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」（2025年3月改定）では、IDとパスワードが漏えいした場合の「なりすまし」による不正アクセスを防ぐため、校務支援システムなど重要性分類Ⅱ以上の情報資産を取り扱う場合には、多要素認証を含む強固なアクセス制御対策が必要とされています。「次世代校務DXガイドブック」でも、多要素認証は教員については必須、児童生徒・保護者については推奨と整理されており、その手段として、証明書を用いた端末認証などが有効とされています。

一方、校務支援システムへのアクセスを管理するSASE（クラウド型のセキュリティゲートウェイ）では、校内の無線LANに「どの端末を接続させるか」までは管理できません。私物のPCなど許可されていない端末が校内ネットワークにつながるのを防ぐには、無線LANへの接続そのものを端末単位で認証する仕組みが必要です。しかし、RADIUSサーバや認証局を新たに構築・運用することは、学校や教育委員会にとって費用・運用の両面で大きな負担となっていました。

『Tbridge®』は、これまで2,400校以上（2026年3月時点）の学校において導入実績のある無線通信の可視化・安定化ソリューションです。本バージョンでは、校内ネットワークに設置されている『Tbridge®』にRADIUS

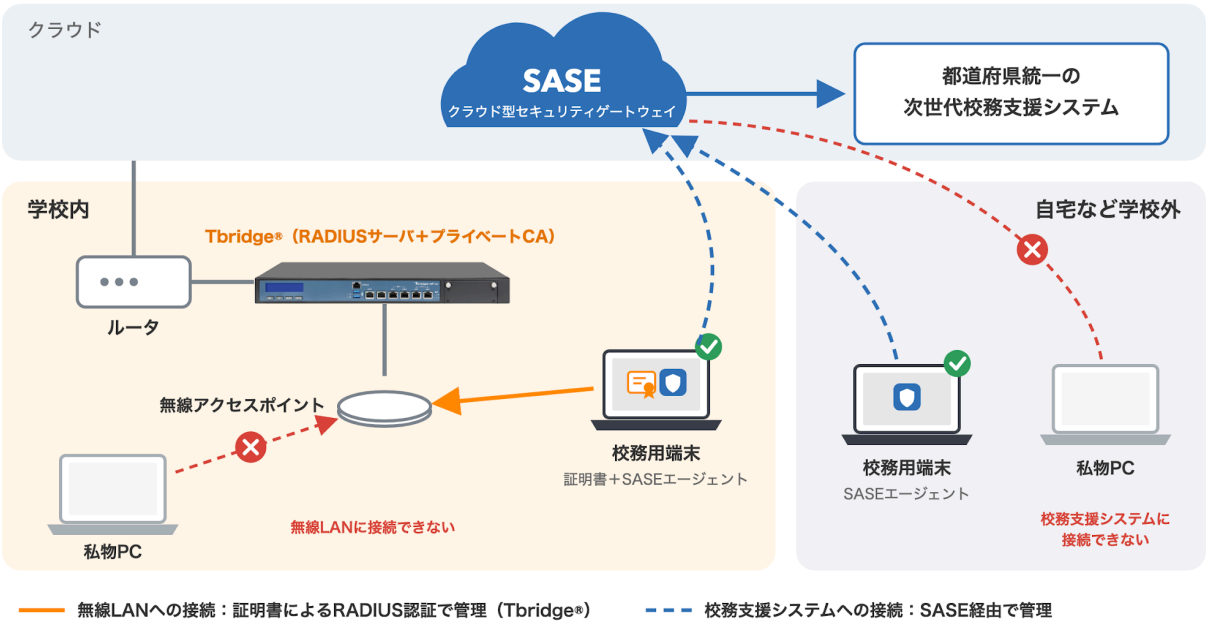
CHleru ＜Press Release＞
認証の機能を持たせることで、新たにサーバを用意することなく、端末認証の仕組みを整えられるようにしました。

▪Version 7.0 の主なアップデート内容
◯1. **RADIUS認証（IEEE 802.1X／EAP-TLS証明書認証）に対応【有償オプション】**
①『Tbridge®』1台で認証局と認証サーバを兼ねる
プライベート認証局として端末用の証明書を発行し、無線アクセスポイントからの認証要求を受けるRADIUSサーバとして動作します。別途サーバを構築する必要はありません。
②証明書を持つ端末だけを校内無線LANに接続
証明書による端末認証で、私物のPCなど許可されていない端末の接続を防ぎます。IDとパスワードに加える多要素認証の要素として活用できます。



▲RADIUS認証の構成（『Tbridge®』が認証局・認証サーバを兼ねる）

③SASEと組み合わせて、校内・校外のアクセスを一体で管理
校内無線LANへの接続はRADIUS認証で、校務支援システムへの接続はSASEで管理することで、校内でも自宅など校外でも、強固なアクセス制御の環境を構築できます。



▲SASEと端末認証を組み合わせたアクセス制御の例

④端末数に左右されない定額ライセンス
証明書の発行枚数や認証装置（無線アクセスポイント）、利用端末の数にかかわらず、年間定額のオプションライセンスで利用できます。端末に配布する証明書は無償です。

◯2. 上記以外のアップデート
①時間帯に応じた**QoS**（帯域制御）
Adaptive・Manual・Equalの複数のモードを備え、導入環境に合わせて時間帯ごとの帯域制御をスケジュールで運用できます。Adaptiveモードでは、OSアップデートなど特定の通信を対象に優先的に制御し、授業中の学習用通信の帯域を確保します。
②**DNS**キャッシュ
DNSの問い合わせ結果をワイルドカード指定でキャッシュし、DNSの応答時間を0.1ms以下に短縮します。通信開始時のレスポンスが向上し、短縮の効果はグラフ・数値で確認できます。
③処理性能・操作性・可視化の強化
最適化エンジンとキャッシュエンジンの統合による処理・レスポンスの向上、管理画面の刷新による操作性の改善に加え、ダッシュボードで確認できる項目（デバイス認証、DNSキャッシュ、QoSの状況など）を拡充しました。

▪製品情報
製品名：Tbridge®（無線通信可視化・安定化ソリューション）
バージョン：ファームウェア Version 7.0
リリース：2027年2月（予定）
RADIUS認証機能：有償オプション（年間ライセンス）
製品ページ：https://www.chieru.co.jp/products/system/tbridge/
※ 現在、Tbridge®を利用で保守契約期間中のお客様は、無償でVersion 7.0へアップデート可能です。
（ただし、RADIUS認証を利用する場合は、別途オプションの購入が必要です）
※ 記載の内容・仕様などは開発中のため、予告なく変更になる場合があります。

▪今後の展望
チエルは、2030年度の次期学習指導要領の全面実施とデジタル教科書の正式な教科書化を見据え、「ストレスのない通信環境」と「安心・安全なネットワーク環境」の両立を『Tbridge®』で支援してまいります。今後は、ネットワーク管理サービス『T-Manager』等と組み合わせたネットワーク機器の死活監視やリモートメンテナンスの強化も予定しており、教育委員会・学校のネットワーク運用の負担軽減に取り組んでまいります。

チエル株式会社
「子供たちの未来のために、世界中の先生を ICT で支える」という企業理念のもと、シェア NO.1 のフルデジタル CALL システムやフルクラウド授業支援システム、クラウド型教材配信サービスなどを開発しワンストップで提供する、教育市場に特化した ICT 専業メーカーです。

【会社概要】
会社名　　：チエル株式会社【東証スタンダード・コード番号：3933】
代表者　　：代表取締役　川居　睦
本社所在地　：東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー22F
設立　　：1997年10月1日
資本金　　：3.36億円
事業内容　：教育ICT事業
ホームページ：https://www.chieru.co.jp

※Tbridgeは、チエル株式会社の登録商標です。
※記載されている会社名および商品名は各社の商標もしくは登録商標です。

取材に関するお問合せ先
チエル株式会社　プロダクトマーケティング部（広報担当） E-mail：tm-pr@chieru.co.jp

製品に関するお問合せ
https://www.chieru.co.jp/mailform/inquiry/